

12月県議会 07年度決算認定に反対討論

来年度に向けての知事の姿勢は



医療・福祉・教育の県民要求を 抑え込んだ知事

3日の県議会開会日、日本共産党の笹山一夫県議団長が反対討論に立ちました。山形県議会は、昨年度一般会計について「知事の『プライマリバランス』等の言葉は、医療・福祉・教育等の分野で県民要求を抑え込む役割を果たしたことに、果敢と指摘し、県民の声に耳を傾け、



反対討論に立つ山形県議団長＝3日、県議会

痛みを是正を図るべきだと述べました。また、病院事業会計については、保健医療計画、では県立病院の充実をうたっています。しかし、実行したことは、病床数の削減と県立日本病院長の経営放棄（独立行政法人化）です」と

斎藤知事は、12月県議会の知事説明で、来年度予算について、こう述べました。「県民誰もが、ここで喜んでいれば大丈夫という、あたたかさを、感じ、そして、『世界』をも魅了する『ふるさと』、やまがたの『実現』に向けてまいります。『プライマリバランス』の

知事説明に見る来年度予算

黒字と私利私欲の均衡達成」という財政規律・健全化目標については、従前から甲し上げては、中長期的な達成目標という位置付けのもとで、現下の厳しい事態を踏まえ、臨時的・緊急的な取り扱いは検討も必要と柔軟に考えたいことと述べている。

強気路線も転換の兆し？

強気な「改革」路線は、反響する県民の声で方針転換



県民の痛みには反省なし

ただ指摘する声があがっていました。今議会の知事説明のなかには、「あたたか」と「柔軟」とかの言葉がありませんが、痛みをもちたらしめてきた「集中改革プラン」の反省や見直しには「一言もふれていません。日本共産党県議団は、真にあなたがい県政実現をめざして、今後も議会内外で奮闘していきます。」

また、病院事業会計については、保健医療計画、では県立病院の充実をうたっています。しかし、実行したことは、病床数の削減と県立日本病院長の経営放棄（独立行政法人化）です」と

設立五周年記念祝賀



祝賀会であいさつするゆり子

6日、県労働相談センターの総会と設立5周年祝賀会が開かれ、祝賀会に出席し、交流しました。センターは2003年設立、労働組合や弁護士、市民団体、個人などで構成されています。最近では、派遣議員に出席し、交流しました。センターは2003年設立、労働組合や弁護士、市民団体、個人などで構成されています。最近では、派遣議員に出席し、交流しました。センターは2003年設立、労働組合や弁護士、市民団体、個人などで構成されています。最近では、派遣議員に出席し、交流しました。

2008年12月14日 第54号
発行 日本共産党県議会議員 渡辺ゆり子
〈連絡先〉
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241
自宅・山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

山形県労働相談センター
設立5周年祝賀会に参加

ゆり子の視点
公務員ハツシングに思う
ある商工団体の人から聞いた話です。
居酒屋に行ったら、「こんなに経済が厳しいのに公務員は給与が安定して楽しめている」と公務員ハツシングで盛りあがっていたそうです。「ところで、役場の人は飲みに来るか」と聞いたら、「そういえば、最近さっぱり」と答えたとのこと。
12月県議会では、人件費減額の議案が出ています。2年連続で人事委員会勧告を実施しない方針です。給与や賞金について、民間も自治体も賤しい含めて抑制や引き下げの方向です。一般の公務員の人件費の社員や自営業の方を対立させ、得をするのは誰でしょうか。ここは連帯して、民間労働者も公務員も、くらしの危機打開へ声をあげる時です。商店街も消費もなければ、営業が成り立たなくなってしまう。家に輪足をお客さんが消えなくなれば、お客さんが消えなくなれば、営業が成り立たなくなってしまう。家に輪足をお客さんが消えなくなれば、お客さんが消えなくなれば、営業が成り立たなくなってしまう。家に輪足をお客さんが消えなくなれば、お客さんが消えなくなれば、営業が成り立たなくなってしまう。

11月25日時点の全国調査で、非正規労働者の多い山形県は、4273人（全国は47万人、3.07％）となっています。ここは、氷山の一角と指さされており、今後さらに増えるものと心配されています。家計に輪足を、労働者は、関係者と協力し、県政での対強強化を、求めていきます。